

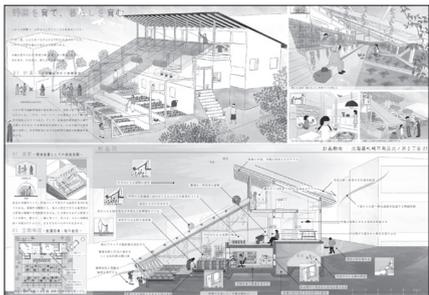
# 建築アイデアコンテスト、

## 学生部門「優秀賞」を受賞

### 北海道学園大学

2月28日、中国電力株式会社（本社・広島市）が主催する「第25回ぐつとずつと。エネルギー住宅作品コンテスト」の入賞作品が発表され、

北海道学園大学（札幌市）の工学部建築学科4年次・高崎



家庭菜園に着目した作品「野菜を育て、暮らしを育む」

菜々美さん（北海道小樽潮陵高等学校出身）らによる作品が学生部門の「優秀賞」を受賞した。

今回で第25回を迎えた同コンテストのテーマは「未来に向け暮らしに寄り添う新たな住まいだ。学生部門では、審査委員が4点の審査基準をもとに作品を審査・協議して、総合評価を行う。昨年9月1日～11月30日にかけて、同部門には全66点の応募があった。

今回、優秀賞を受賞したのは、同大の建築学科4年の高崎さんと、同大学院工学研究科の米田浩志教授の研究室に所属する2年次・三浦光雅さん、渡邊憲成さんの3人による共同作品「野菜を育て、

暮らしを育む」だ。

高崎さんらは、北海道札幌市郊外における多世帯住宅の設計を計画し、住民の暮らしを自給的に支える家庭菜園に

着目。住宅に柵畑の菜園をつくり、野菜つくりで発生する温度を室内に取り入れる建築アイデアを表現した。例えば、冬場には菜園に面した窓から柵畑を上昇してきた空気が室内を暖める一方、夏場には水やりの打ち水効果と簾の

日陰によって冷やされた空気が気流に乗って住居を吹き抜けるなど、菜園での野菜つくりと住居での暮らしが相互に関わる住まいを提案した。

審査委員は「地域の特性を活かした温熱環境を取り込んだ、持続可能な住まいの提案です。夏と冬の過ごし方や菜園の高さに応じた生育環境へと展開させている点を評価したい」と、講評を寄せた。